

項目	説明	
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	重粒子線治療における腫瘍線量改善に関する研究
	研究対象者	2016年1月～2026年12月までに神奈川県立がんセンターにて重粒子線治療を受けた患者
	研究目的	重粒子線治療は Bragg-Peak と呼ばれる物理的特性を活かして、隣接した臓器を避けながら腫瘍に高い線量を付与できる特徴がある。この様に腫瘍へ限局した照射が実現できる一方で、重粒子線はビーム進行方向の密度変化（体型変化、骨や消化管ガスの位置変化など）に敏感であり、停止位置がずれると腫瘍への線量付与が低下する。重粒子線治療では X 線撮影画像に投影された骨を指標に照射位置を調整するが、臓器の位置まで確認することはできない。つまり、前述の要因などにより腫瘍位置が計画位置より変化していると腫瘍線量の低下を招く可能性がある。本研究では、現状の重粒子線照射手法を高精度化し、腫瘍への線量付与を改善することを目的とする。
	研究方法	治療計画用 CT 画像上で試験的に治療計画を立案し、治療期間中に取得した治療 CT 画像上で治療計画時の照射条件を変えことなく線量分布を計算する。最終的に従来法と本研究で提案する手法を比較評価する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2024 年 4 月 22 日～西暦 2027 年 3 月 31 日
利用又は提供を開始する時期	[] 総長が研究実施を許可した日	
	[X] 西暦 2024 年 5 月 1 日頃（研究の進捗によって前後いたします）	
利用する試料・情報の項目（チェック [X] が入った項目を利用します）	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[] 生年月日、[X] 性別、[] 既往歴、[] 併存疾患、[] 外来日・入院日・退院日、 [] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、 [] 看護記録、[X] その他(具体的に記載: 治療計画用 CT 画像、室内 CT 画像、線量分布)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 医学物理工学科 永田 順也（研究代表者）
	共同研究機関および責任者	施設名・氏名 名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻 医用量子科学

		小森 雅孝 准教授
	その他の機関	なし
	外国へ提供する場合	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先	神奈川県立がんセンター 医学物理工学科 永田順也 045-(520)-2222(代) 利用停止のお申し出は2027年1月31日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります